



受賞 延岡駅周辺整備プロジェクト

6/8 中心施設エンクロス 乾久美子さん監修

建築士の乾久美子さんがデザイン監修した延岡市の「延岡駅周辺整備プロジェクト」が、国内最高峰の建築賞とされる日本建築学会（会長・竹脇出京都大学教授）の日本建築学会賞（作品）を受賞した。延岡市駅前複合施設エンクロスを中心とした建築作品や、市民ワークショップの開催などの設計プロセスが評価された。

延岡駅周辺整備プロジェクトは、コンクリート柱とガラス面で構成された整然とした姿。一部のガラス面を柱筋からずらし、吹き抜けや階段の位置に配慮し、一体性があっても画一的ではない建物。「都市的なスケールと一人ひとりがたたくめる小空間を両立させている」と評価。

同プロジェクトで整備された東西自由通路や駅前広場、交番などについても乾さんがデザイン監修し、全体の風景に統一感を持たせた。ここからが新規であるか一見するとわからない形態であり、人間の行為がなげなく連なるように工夫されている」という。

また、設計過程で幅広い分野・年代が参加した市民ワークショップの開催や地元との合意形成、コミュニティ・デザイナーの専門家との協働が取り入れられたことは「需要への対応とプロセスの

国内最高峰の建築賞 日本建築学会賞

技術・芸術の進歩に寄与する優れた作品（3件）を選んでいる。

今年は38作品の応募があり、資料審査と現地審査の結果、延岡駅周辺整備プロジェクト、パナソニックスタジアム吹田（大阪府）、道の駅ましろ（栃木県）が選ばれ、4月17日に結果が公開された。